私立　佛教大学

●プログラムの名称：「縁」コミュニティによる離脱者ゼロ計画
――適度な距離感を保った学生の共同体作りと就学支援セーフティネットの構築
●プログラム担当者：副学長・文学部　教授　田中　典彦
●キーワード
１．離脱者ゼロ　２．縁（えにし）コミュニティ　３．セーフティーネット
４．ミッションプログラム　５．卒業生も巻き込んだ学びの共同体

１．大学の概要

本学は、1868（明治元）年創設の仏教講究機関を前身として、1949（昭和24）年、学制の改革に伴って４年制の大学となった。開学以来、最高学府としての教育・研究の充実につとめる一方、通学課程と通信教育課程を両輪にして生涯学習の要請に応える大学づくりを行っている。

現在、通学課程に５学部10学科、大学院４研究科に修士課程12専攻・博士後期課程12専攻を開設し、約6,500名の学生が学んでいる。また、通信教育課程にも４学部を設置するとともに、1999（平成11）年４月よりわが国初の通信制大学院を開設し、学部・大学院による一貫した教育・研究体制を通学・通信の両課程に構築している。

本学では、学校制度の終点にある教育機関という位置づけを踏まえ、人格形成にも重点を置いた教育を行っている。また、仏教の精神を支柱に、人間尊重の精神を育むことにも努めており、様々な「縁」（えにし）の中で生きているのが人間であり、常に相手の立場に立って思考し、行動できる人間性の涵養も、本学の教育が目指しているものの一つである。

２．本プログラムの概要

本取組は、入学者全員の卒業を目指す「離脱者ゼロ」プログラムである。

そのために、同級生との「ヨコ」関係、上・下級生との「タテ」関係、さらに教職員との「立場」関係を柔軟に組み合わせた「縁（えにし）コミュニティ」を作る。この共同体は、現実に顔を会わせて集う場やインターネットを活用したバーチャルな場を利用することができ、適度な距離感のつながりがセーフティネットとなって孤立化を防ぎ、挑戦への支えとなる。

また、「ミッションプログラム」を開講して本学で学ぶ意義や使命を伝え、学生として、また社会の一員としての自覚、主体的な学びへの自覚を促す。またそれは、学年の進行に伴う系統的なカリキュラムと連動していく。加えて、卒業生も巻き込んだ学びの共同体は、学生、卒業生の両者にとって、キャリア形成の場となる。もって本取組により、自らの力で大学や社会との「つながり」や「つながる力」が養成されるのである（図１）。

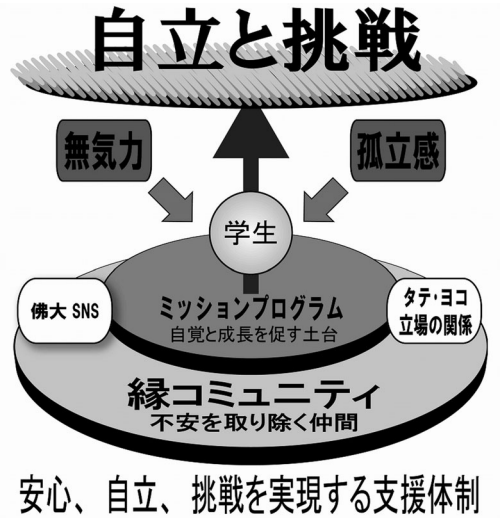

図１　安心、自立、挑戦を実現する支援体制

３．本プログラムの趣旨・目的

本学生支援プログラムは、以下の３つの趣旨・目的を持つ取組である。

（１）セーフティネット機能の構築

大学に入学すると、科目選択やサークル活動、アルバイトや一人暮らし等、高校までの生活とは異なった体験を数多くすることになる。とりわけ、主体的に活動し、様々な環境と自らつながりを築いていくことを苦手とする者にとっては、そうした環境は非常に過酷な場となり、場合によっては、周囲から取り残され、

孤立感と無力感を感じていくことになる。

本学では、これまで、入門ゼミ等少人数による学生指導や窓口での個別指導等による学生支援を行い、離脱者の減少に努めてきたが、今後の多様化する学生の受け入れも視野に入れ、入学前より、同級生との「ヨコ」関係、上級生との「タテ」関係、支える「立場」の教職員との関係を柔軟に組み合わせ、適度な距離感を保った「縁（えにし）コミュニティ」（以下「コミュニティ」）という共同体を作り、学内における孤立化やそれらに伴う修学意欲の低下を防止する。

この適度な距離感を保った共同体は、現代学生のニーズを踏まえ、実際に顔を合わせる場（ミッションプログラムの受講）と「佛教大学ソーシャル・ネットワーキング・サービス」（以下「佛大SNS」）というインターネット上のバーチャルな場を用意し、本学のセーフティネットとして離脱者ゼロを目指す。

（２）佛教大学のミッション（使命）を理解し、学びの自覚を促す

「タテ」・「ヨコ」・「立場」のつながりにより、大学生活への安心感を与えた上で、佛教大学のミッション（使命）と大学で学ぶ意義を伝え、主体的な学びへ動機付けを行うために「ミッションプログラム科目群（仮称）」（以下「ミッションプログラム」）を置く。

これにより、佛教大学生としての自覚、主体的な学びの自覚、社会の一員としての自覚を促し、４年間の学びの基礎力と卒業後の出立に向けた基礎力を養成する。また、このミッションプログラムは、学年の進行に伴って用意されている学部・学科のカリキュラムやインターンシップ等に連動し、学生全体の学習意欲のより一層の向上につなげる。

（３）卒業後も睨んだキャリア支援

近年、雇用を取り巻く環境は大きく変化した。終身雇用を前提とした人生モデルは標準的なモデルではなくなり、負け組や格差社会等の言葉が生まれた。本学でも、78％の学生が将来の進路について不安や悩みを感じている。

そこで、ミッションプログラム等によるキャリア形成意識の涵養やインターンシップ等による実践的キャリア教育はもとより、卒業生も巻き込んだ学びの共同体を佛大SNSに作り、在学生と卒業生の双方にとってのキャリア形成の場を構築する。

４．本プログラムの独自性（工夫されている内容）

（１）「タテ」・「ヨコ」・「立場」の適度な距離感を保った「つながり」作り

入学手続完了後に40～50人を一つの単位として、インターネット上でコミュニティを作り、入学前の不安を解消する。このコミュニティは、「ヨコ」関係の同級生だけでなく、「タテ」関係の上級生、学生を支える「立場」の教職員が適度な距離感を保って参加する（図２）。

このコミュニティは入学後も継続され、１回生のミッションプログラムはこのコミュニティ単位での受講となる。このようにインターネット上と実際に集まるミッションプログラムの受講現場において、人とのつながりの機会を提供する。

また、インターネット上のつながりは、卒業後の３年間に至るまで継続され、同級生や上・下級生との情報交換、各種ゼミ、各種学生生活支援、キャリア支援、卒業後の通信教育課程事務局からのリカレント学習支援等と有機的につながることが可能となり、孤立化の防止と新たな挑戦への支えとなる。

（２）ミッションプログラム科目群

ミッションプログラムは、１回生を対象に佛教大学の使命（ミッション）と学び方・社会人としての基礎力を養うもの、２回生を対象に発展的な能力やスキルを養うものに分かれており、さらに、学年の進行とともに行われる系統的なカリキュラムと連動している

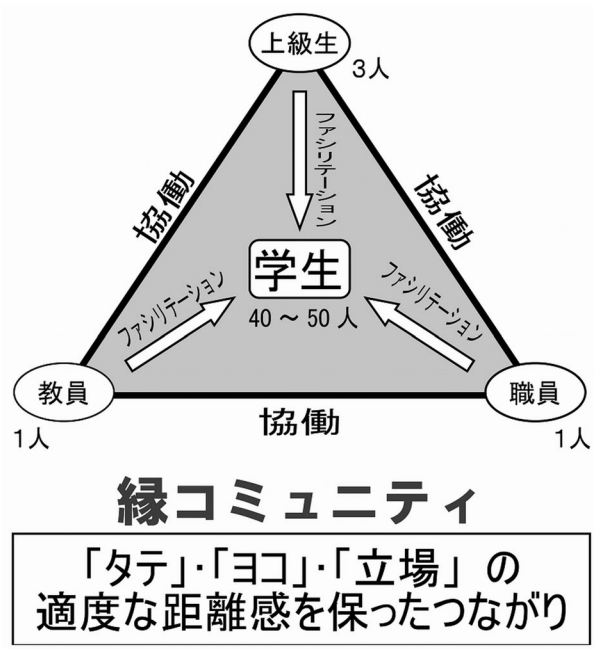

図２　縁（えにし）コミュニティ

（図３、表１，２参照）。

１回生対象のミッションプログラムでは、コミュニティ単位で受講し、佛教大学生としての自覚、主体的な学びの自覚、社会の一員としての自覚を促すとともに、大学生活をより豊かに、より安心して過ごすための指針やノウハウを与える内容となっている。

この１回生対象のミッションプログラムは、教員・職員・上級生もコミュニティの一員として参加し、そ

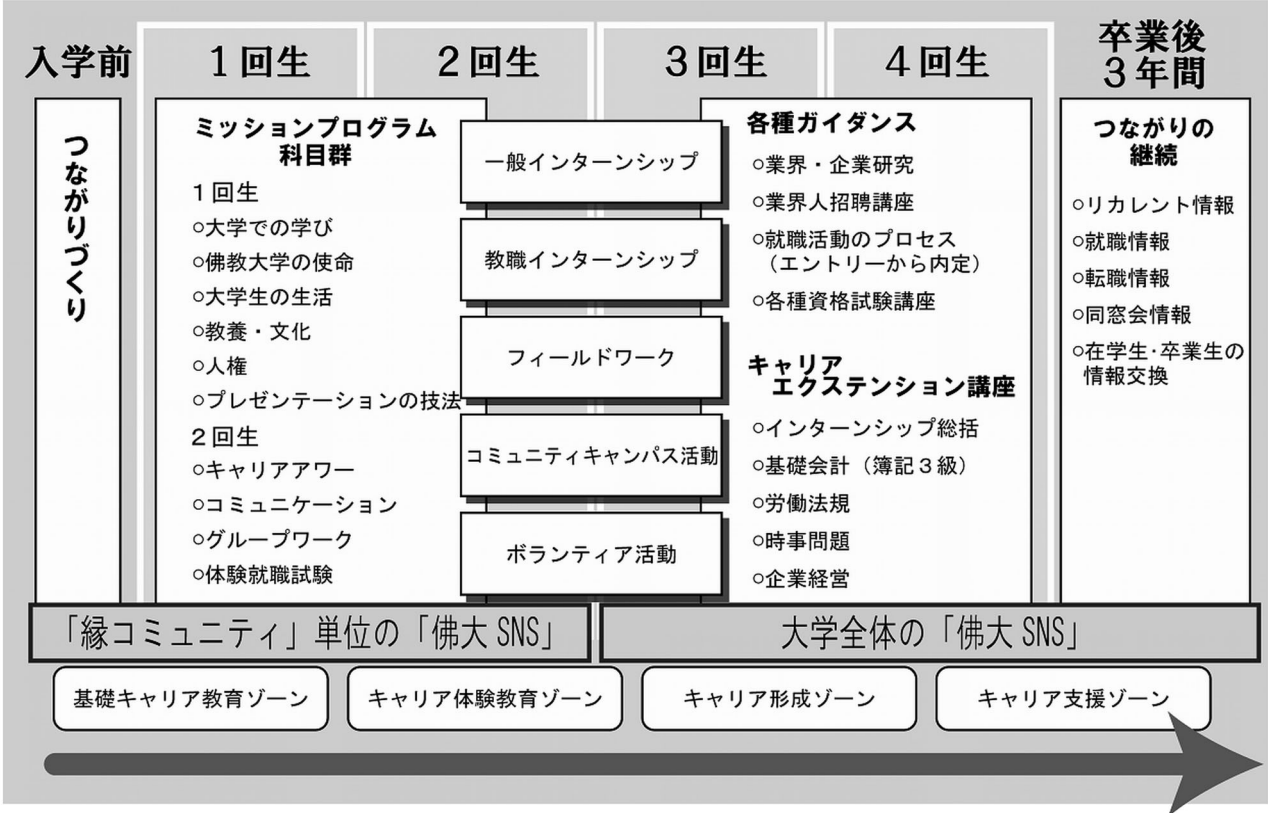

図３　入学前から卒業後も睨んだキャリア支援体制

表１　１回生ミッションプログラムの詳細と実施時期

テーマ	プログラム内容	目的	実施時期
大学での学び	教育理念・キャリアライフデザイン・キャリアデザイン基礎・学び方	学生生活の基礎作り	ガイダンス時
佛教大学の使命	仏教精神・社会貢献・法令順守	佛教大学人の育成	春学期（単位可）
大学生の生活	健康管理・食生活・リスク管理	生活習慣への指針	春学期
教養・文化	華道・茶道	情緒性の育成	春学期
人権	基本的人権	他者への尊厳	秋学期（単位可）
プレゼンテーションの技法	パソコンなどを活用したプレゼンテーション法	プレゼンテーション技法の育成	秋学期

表２　２回生ミッションプログラムの詳細と実施時期

テーマ	プログラム内容	目的	実施時期
キャリアアワー	キャリアの展望	基礎的キャリア形成	春学期
コミュニケーション	ディスカッション・ディベート	傾聴力・説得力の獲得	春学期
グループワーク	チームワーク・リーダーシップ	協働のスキルの獲得	秋学期
体験就職試験	理数・時事問題・TOEIC	自己能力の確認	秋学期

の三者が一体となってグループワーク等を活性化する。そして、「学生が主体性を発揮し、学生やそのコミュニティの持てる力を引き出すために必要な支援（以下「ファシリテーション」）」を行うとともに、学生の学習態度の変化をいち早く察知し、必要に応じて学生支援の各窓口、学生相談室、保健管理室等にリファーする等の学生支援を行う。

なお、２回生対象のミッションプログラムは、学生の新たな人間関係の構築を促すために、コミュニティ単位での開講はしない。

（３）佛大ＳＮＳ（佛教大学ソーシャル・ネットワーキング・サービス）

佛大SNSは、ICTを活用し、適度な距離感を保ったインターネット上のコミュニケーションの場を提供するツールである。このツールを使い同級生同士の「ヨコ」の関係による楽しい会話や励まし、上級生との「タテ」の関係による気づき、教職員との「立場」の関係によるアドバイス等により学生のセーフティネット機能を持ち、同時に学生の学び、キャリア形成等を促す。

また、この関係はインターネット上で完結するものではない。ミッションプログラムという実際に集う場のコミュニティとも同一のメンバーとなることで、「フェイス・トゥ・フェイス」の人間関係や学生支援に円滑につながるよう工夫する。入学前に形成する40～50人単位のインターネット上のコミュニティが入学後の佛大SNSのメンバーとなり、同じメンバーでミッションプログラムを受講する。

２回生になると学生生活にも慣れてくるが、新たな挑戦とそれに伴う課題も発生することが考えられるため、コミュニティ単位での佛大SNSは２回生まで継続させることとする。３回生から卒業後３年間に至るまでは、コミュニティを問わず大学全体の佛大SNSとしてコミュニケーションの場を提供し、学生及び卒業生のセーフティネット機能及びキャリア形成の場とする。

なお、インターネット上のコミュニティ運営にあたり、様々なトラブルが発生する可能性が考えられるため、細心の注意を払う必要がある。例えば、誹謗や中傷、あるいは「なりすまし」や個人情報の漏洩等である。この佛大SNSは、利用者が限定されており、一般的に言われるネットトラブルは発生しにくいと考えるが、トラブルを防ぐために、学外で行われているソーシャル・ネットワーキング・サービス管理者のアドバイザー登用、利用マニュアルの作成、トラブルを誘発する可能性のある文字列（差別用語、電話番号等）の登録によるアラーム機能、ウィルス対策ソフトの配布等の対策と同時に、必須科目「情報機器の操作」やミッションプログラム等において情報リテラシーの向上に努め、より安全・安心なコミュニティ作りを目指す。

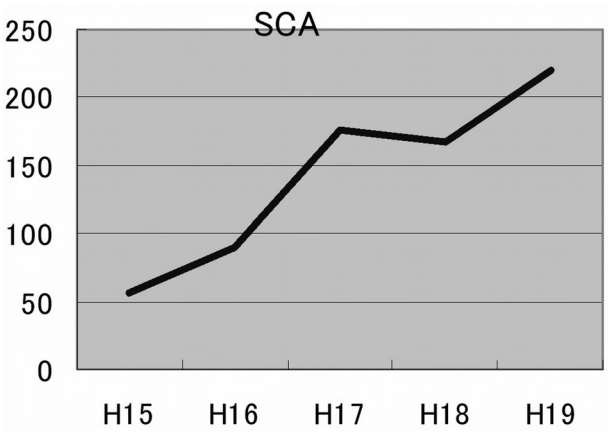

図４　スチューデントキャリア・アドバイザー（SCA）

スチューデントキャリア・アドバイザー（以下「SCA」）は、2004（平成16）年11月より実施され、インターンシップ研修修了者で自己の進路が確定した最上級生が下級生を支援する制度である。学生が集まる場所に相談ブースを開設し、インターンシップや就職活動のアドバイス、進路・就職関係ガイダンスの広報、さらには就職活動中の学生とキャリアアドバイザーとのパイプ役も担っている。

また、SCA自身も他者との相互作用のあり方を学び、社会に羽ばたく準備教育としての効果がある。SCA導入後は、学内企業説明会の参加者の増加（2006（平成18）年度は前年度の３倍）、就職未定卒業者の減少などの効果がある。

（４）「スキルアップ研修」の実施

教員・職員・上級生は、学生支援にあたって、各々に用意されたスキルアップ研修を事前に受講し、ファシリテーションに必要な知識等を得る。なお、上級生には、インターンシップ・プログラムを終了し、学内資格である「スチューデントキャリア・アドバイザー（以下「SCA」図４）として認定された学生を中心に配置することを予定している。

（５）実施体制について

本取組の実施体制として、学長の下に副学長が委員長となる「縁コミュニティ支援委員会」を設置し、取組全体の運営と自己評価、教育機構と事務機構へのフ

ィードバックを行う。

また、同委員会の下に支援プロジェクトチーム（事務局機能）を発足させ、プログラム開発やコミュニティ支援、各学部・学科や各学生支援部署へフィードバックするべき情報の収集・整理等を行う。なお、コミュニティは学部内に置く。

５．本プログラムの有効性（効果）

（１）孤立化、修学意欲減退の防止効果の向上

本学では、SCAによる学生支援の開始により就職未定のまま卒業を迎える者を減少させることができた。入学前の段階より、これから共に学ぶ者やそれを支援する者とのつながり作りの場を提供し、さらに、入学から卒業後３年間に至るまでの「タテ」・「ヨコ」・「立場」のつながりによって、不安、孤立化、学習の遅れ、それらに起因する引きこもり等を防止する効果が期待できる。

（２）ミッションプログラムによる人材育成、学習意欲の一層の高まり

ミッションプログラムによって学生生活やキャリア形成、大学での学びについての指針やノウハウが与えられ、教員・職員・上級生等の支援により大学生としての自覚が促される。

また、仏教精神や社会貢献等、佛教大学のミッションを学生に伝えることで佛教大学生としての自覚が促される。そして、その後の学部・学科での学習や実習参加、インターンシップやボランティア活動等への挑戦を通して、様々な学びや成功体験を積み重ねていく。

このことが人格形成の大きな原動力となり、社会の一員として必要とされる人材が育成されるとともに学生全体の学習意欲をより一層高める効果が期待できる。

（３）キャリア形成支援の充実

学生の56.5％は、入学前の段階ですでに将来の進路について考え始めており、早い段階からのキャリア支援は有効であると考える。ミッションプログラムによるキャリア教育と「タテ」・「ヨコ」・「立場」の関係の中での学びにより、将来のキャリアビジョンと修学意識がより明確になることが期待できる。また、佛大SNSを通じて、卒業後３年間までつながりが継続され、在学生の就職活動や卒業生のキャリアアップやキャリアチェンジ等、双方にとってのキャリア形成につながる効果が期待できる。

（４）教員・職員・上級生の三位一体による学生支援体制の強化

教員・職員・上級生がコミュニティの中で一体になることで、現行の学生支援体制の強化を図ることができる。

また、より学生の目線に近いところで学生のニーズに応じた学生支援や教授法の改善策を提供することができる。さらに学部内にコミュニティを設置することで、すでに行われている１回生の入門ゼミ、２回生の基礎ゼミ等とも連動することが可能となり、早い段階から専門領域の学習への動機付けとしての効果も期待できる。

万一、学生が他学科への転学、通信教育課程への転籍、学部専門外への進路変更等を希望した場合においても教員・職員が連携の下、適切なキャリアチェンジを支援することが期待できる。さらには、コミュニティでの活動を通して教職員の意識改革が常に促進され、「学生のための大学」としてその質をさらに向上することができる。

６．本プログラムの改善・評価

コミュニティの中で学生より発せられる様々なサインは、教員・職員・上級生を通じ、様々な形で学生支援につなげられるが、本取組についての改善・評価は、「内部評価」「外部評価」により行われ、組織的・継続的に改善を加えていく。

（１）「内部評価」

本取組は、まず「縁コミュニティ支援委員会」によって自己評価がなされる。この委員会では、プログラム実施に伴う諸種の問題に、学生の立場、とりわけ支援の受け手の立場から光を当て、検証・評価を実施して改善を図る。

また、この委員会の検証・評価結果は、全学組織である教育開発委員会、教授法開発室、学生委員会、キャリア開発委員会等に報告され、教学・学生・キャリアの各視点から検討と評価を受け、その成果が本取組にフィードバックされるとともに、教授会を通して全教員に共有される。

さらに、本取組は、教員・職員・上級生・学生との間に双方向でのコミュニケーションが可能であるため、それらのコミュニケーションを通して即時的評価による内部評価も行い学生支援の改善に役立てることができる。

（2）「外部評価」

本取組は、インターンシップ協力企業等大学外部のメンバーで構成する「評価モニター制度（仮称）」によって外部評価を行う。また、シンポジウムを開催し、学生支援の先駆的な取組をすすめている大学関係者や専門家を招き、本取組の有効性と今後の方向性について評価と助言をいただく。

７．本プログラムの実施計画・将来性

（1）４カ年の実施計画

①2007（平成19）年度（取組１年目）

・「コミュニティ準備委員会」を設置し、「コミュニティ支援準備プロジェクトチーム」を発足させ、支援ガイドラインを策定する。
・コミュニティを担当する教員・職員・上級生のスキルアップ研修を実施する。
・「評価モニター」制度を構築する。
・「ミッションプログラム」を開発する。
・佛教大学SNSの開発、試用期間を経て2008（平成20）年度入学者より正式運用の開始を行う。

②2008（平成20）年度（取組２年目）

・「コミュニティ支援委員会」の設置を行い、「コミュニティ支援プロジェクトチーム」を発足させ、学部・関係部署との連携を本格化し、プログラムの自己評価と改善を実施し全学へのフィードバックを行う。
・「ミッションプログラム」を開講する。
・評価モニターによる外部評価を開始する。

③2009（平成21）年度（取組３年目）

・「ミッションプログラム」の講座数追加の検討を行い、また正課科目化の検討を行う。
・１回生対象「ミッションプログラム」修了者が２回生対象「ミッションプログラム」の受講を開始する。
・佛教大学SNSのモバイル（携帯電話等）本格運用を準備する。

④2010（平成22）年度（取組４年目）

・「ミッションプログラム」の講座数追加の検討を行い、また正課科目化の検討を行う。
・佛教大学SNSのモバイル（携帯電話等）本格運用を開始する。
・全ミッションプログラム科目群の正課科目化の検討を行う。
・総合的学生支援センター設置の検討を行う。

（2）将来構想

本取組は、４年間の総括を行い、有効性や課題を検証した上で、全ミッションプログラムを正課科目に位置づけることを目指している。また、総合的学生支援センターを設置し、教学と支援が一体となった学生支援体制を構築することを目指している。

選定理由

佛教大学においては、教職員連携の下、組織的かつ具体的に学生支援が実施されており、その成果は、「学生の人間力を育む福祉実習教育の開発」や「公立学校を起点とする小大連携プロジェクト」などにおいて実証されるように大きな成果を上げていると言えます。

また、今回申請のあった『『縁』コミュニティによる離脱者ゼロ計画――適度な距離感を保った学生の共同体作りと修学支援セーフティネットの構築」の取組は、社会的ニーズにあった時宜を得たものであり、その方法も、リアルとバーチャルを併用し、また、カリキュラムにおいても「ミッションプログラム科目群」を開講するなど、構想計画に無理がなく実現性の高いものとなっています。中でも、「卒業生も巻き込んだ学びの共同体」作りは、今後の学生支援の在り方に一石を投じる提案であり、その成果が大いに期待されるところです。

以上のことから、貴学の取組は、学生一人一人が多元的な関わりの中で多様な支援を受けられる取組であり、他の大学等の参考となる優れたものであると言えます。